

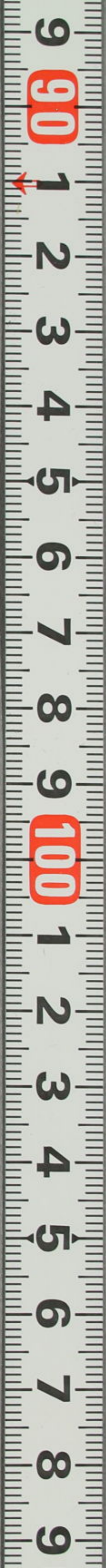
紅雲山

三拾編上

廣幸

文庫

~ 13
3755
16



門 へ 13
号 3755
卷 16

新 庚申
副 申

白 縫 物 語
三 十 篇

上 集

手 紙 文 集
多 様 文 集
法 律 文 集
文 学 文 集
文 学 文 集

庚 申

三 十

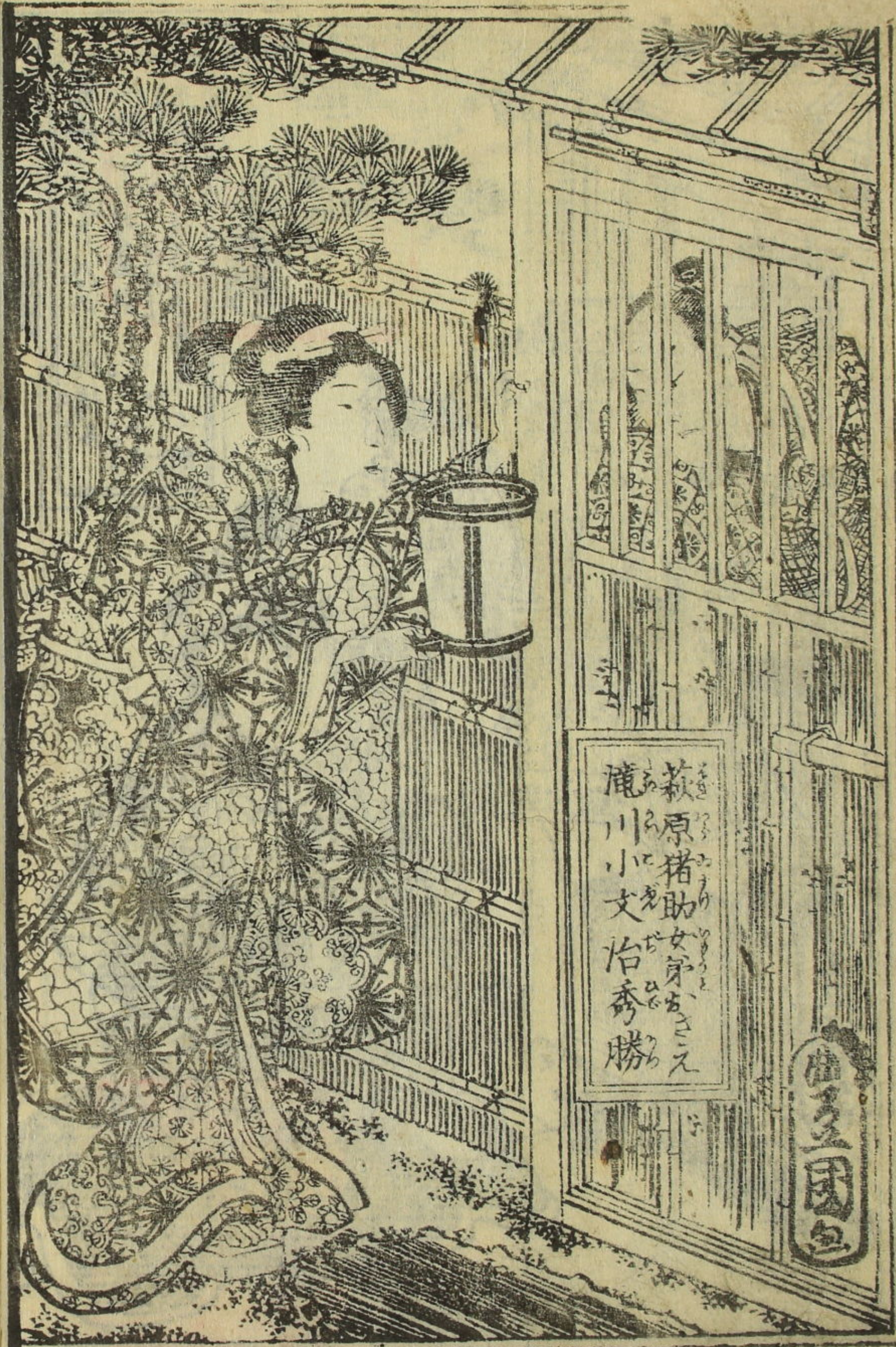
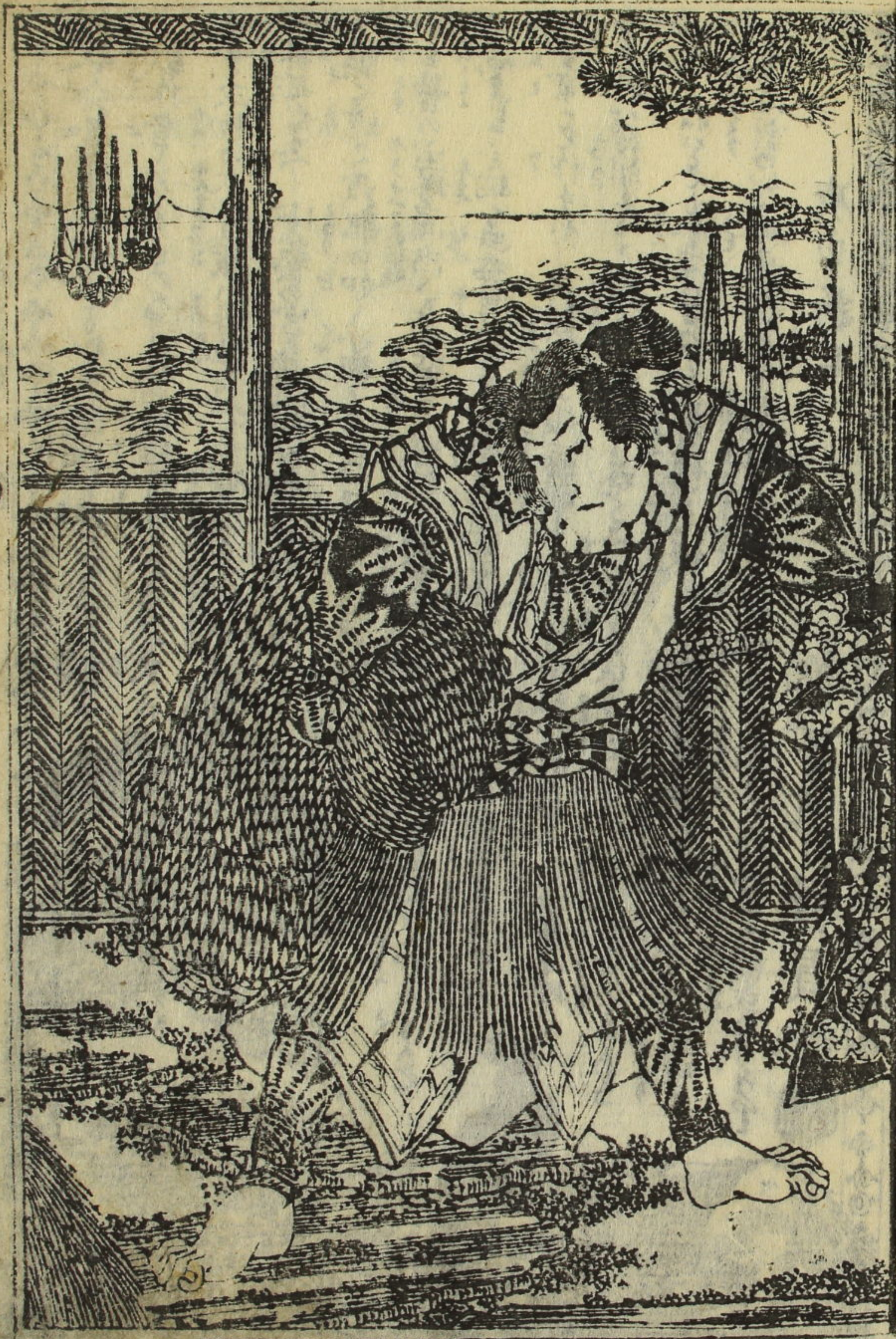


御 幸 申
ゆ ぐ の
博 多
小 女
郎 女



三 十 篇

三 十 篇



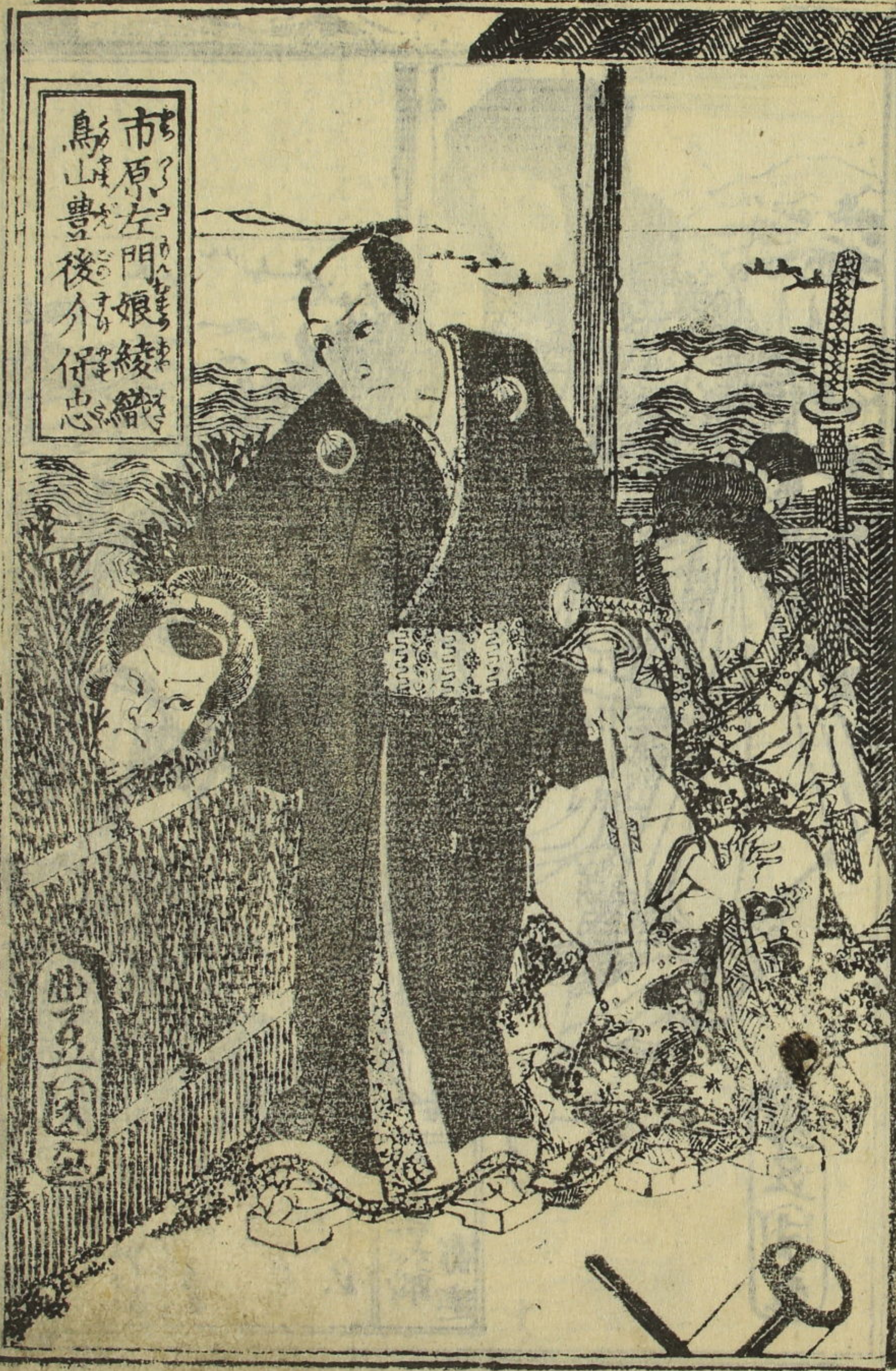
萩原猪助女房
川小文治秀勝

徳之助

歌人の屋敷に名所をのぞき諸國をめぐりたる程に
 戯作者にふるりのふるむ程に地理を練りたる末に
 名所の物の本書綴り自他への習俗を鑑賞し
 番毎なる一安藝の宮島の周り長門の海上を遊し
 隔て遠く京都の如く手懸くたる塔の噂も何所陀寺も
 五層の宝塔涌出たるも皆是理外の高言を殊に守らぬ免の前脚に知らずと
 地書とて調て無益骨折する趣向の新説を妙に碎き中から出で胡桃の膏のやわ
 文章とて作まわりこれ然るに雲霧も現前の續風土記に貸るの厚意を感
 ずれば發明するこのやわぬわゆる藤園豊後の話も移るに其地書左右にある
 なぬわがとも全備せぬとて看破しく履かかると六次編の轉浦具佐介の隠家也の
 其名計のが嘘をみるも名所大角抄を歌吟するも覚束るに風骨の讀立のるや

庚申新春

柳下亭種員記

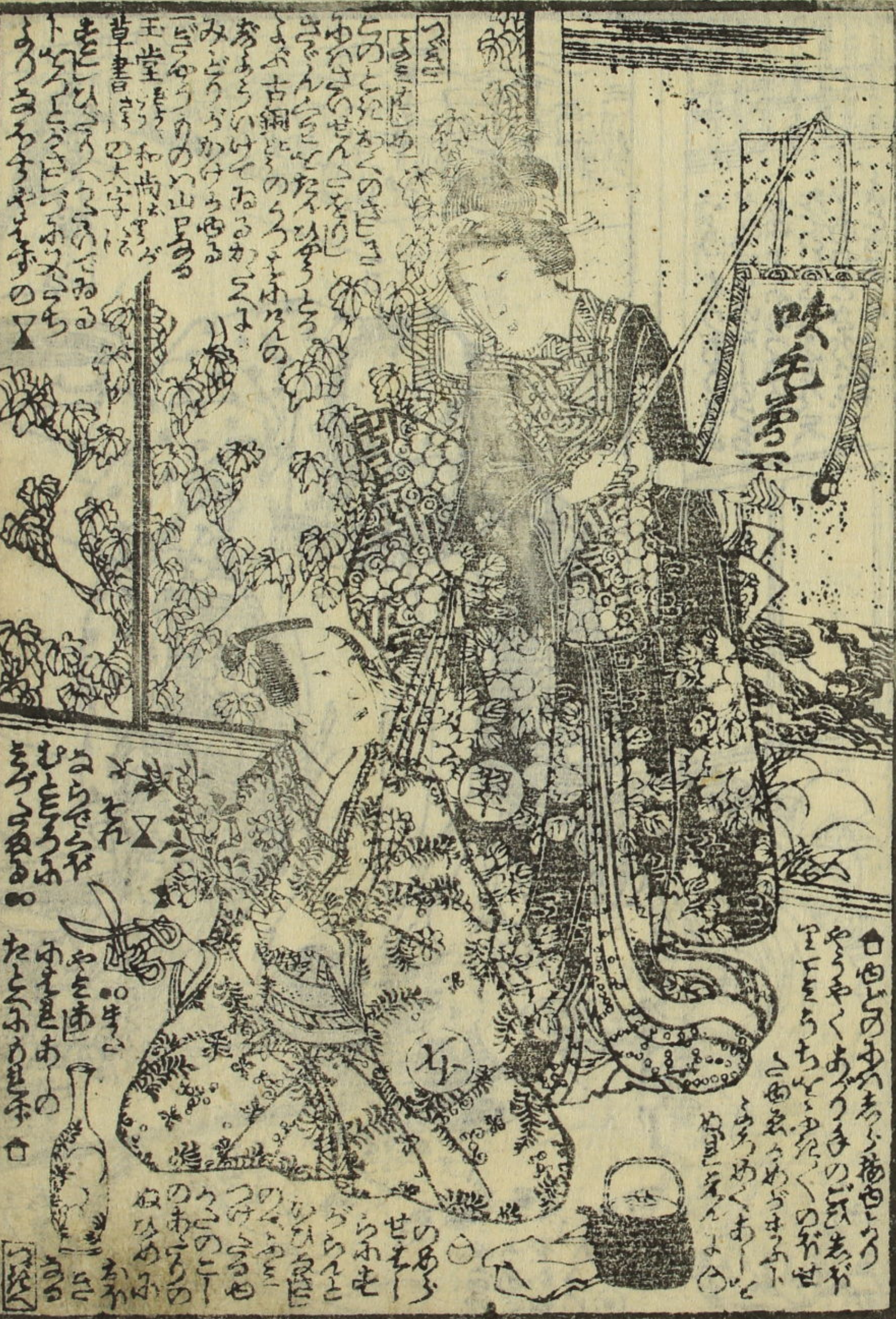


市原左門娘綾織
 鳥山豊後介侍忠



御行
 大友岩太郎
 喬連
 徳子の
 反の
 名

團扇



吹毛
 玉堂
 草書

吹毛
 玉堂
 草書
 吹毛
 玉堂
 草書



種員作
國貞畫

三
繼禪

三拾編下

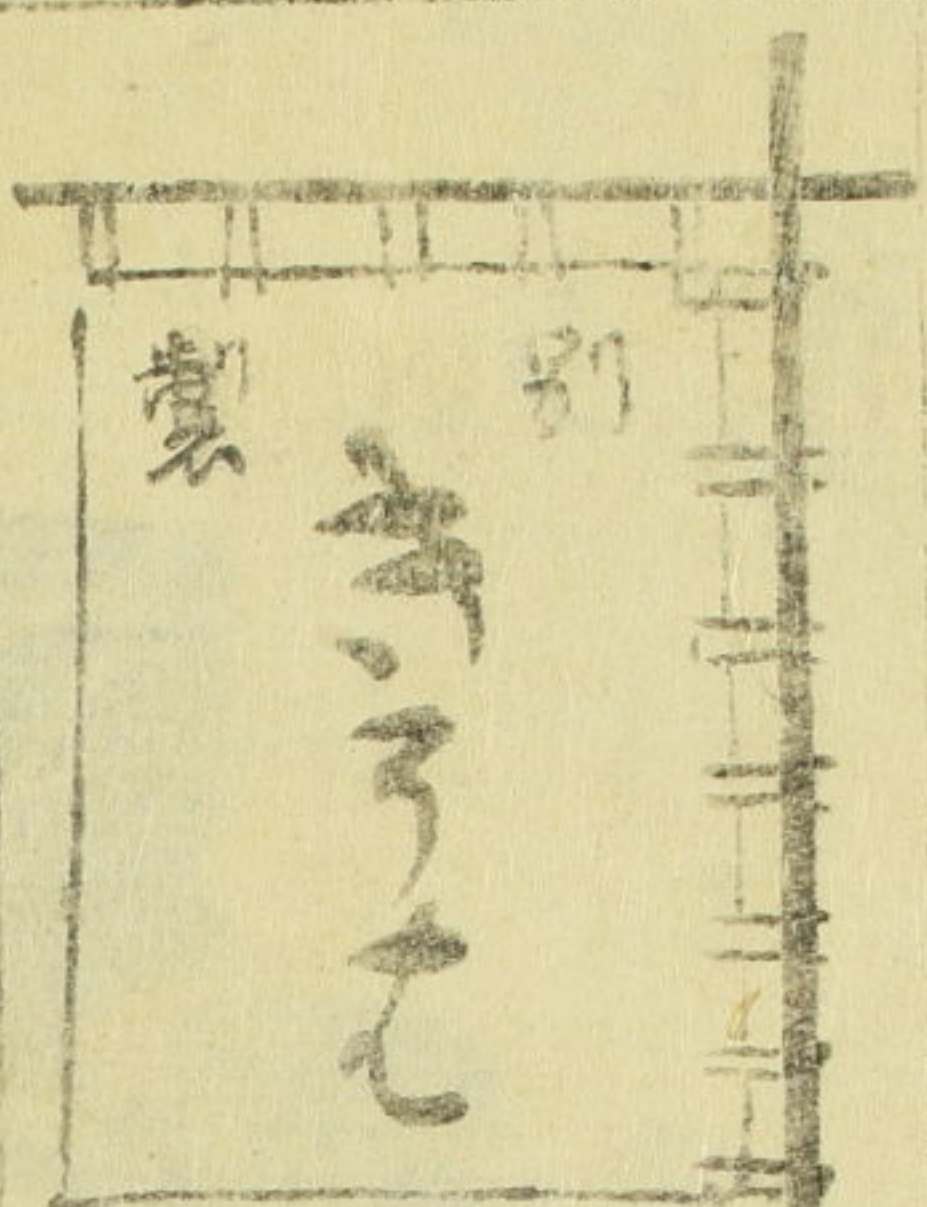




廿一編 下快 巻首の 例と追 玄之雨 翠々 親熱 様と

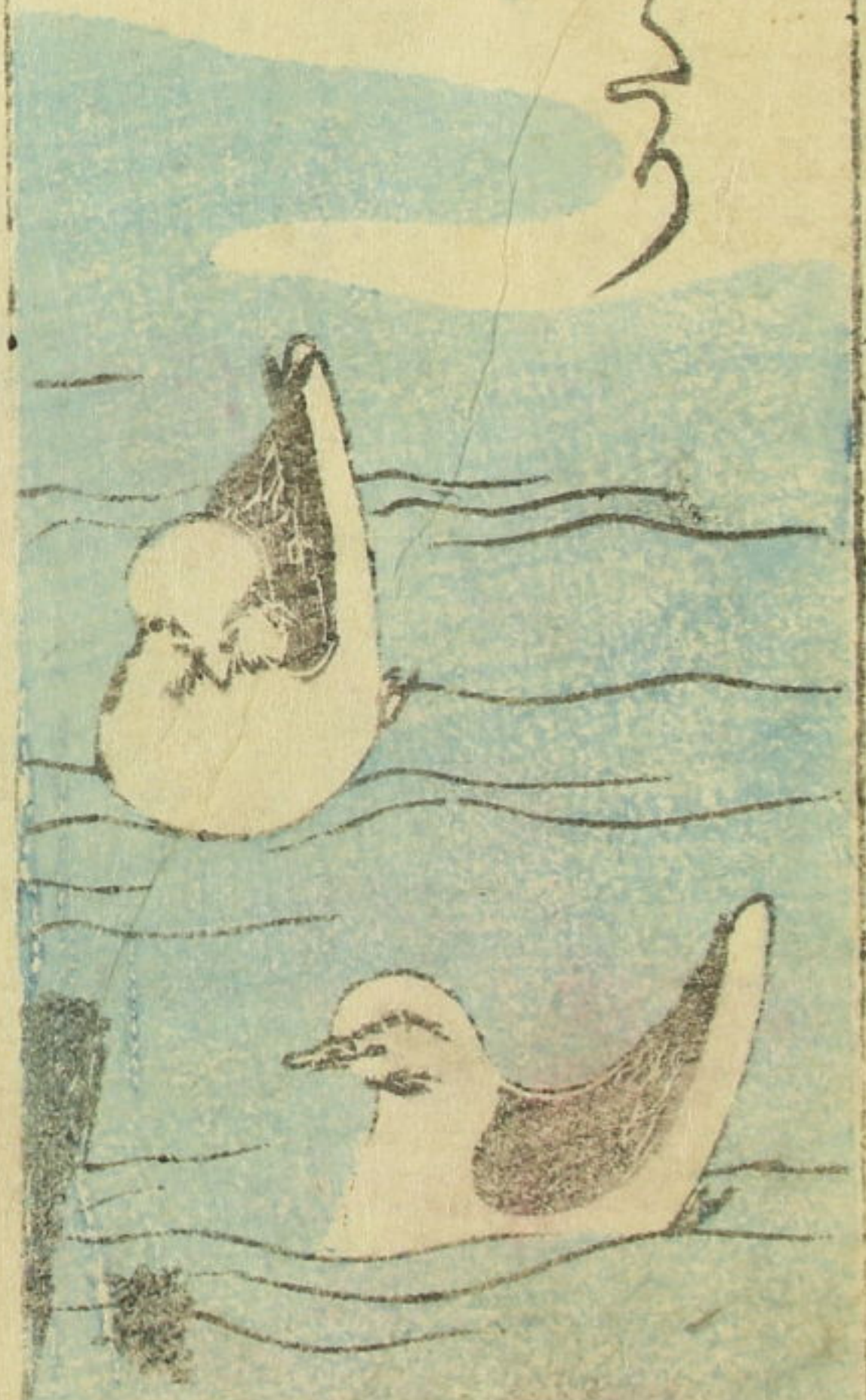
画のせ看官小醋と 契セとを帯は是白梅

薄余 隣と 貴慮と 深のじめん 料之ゆり

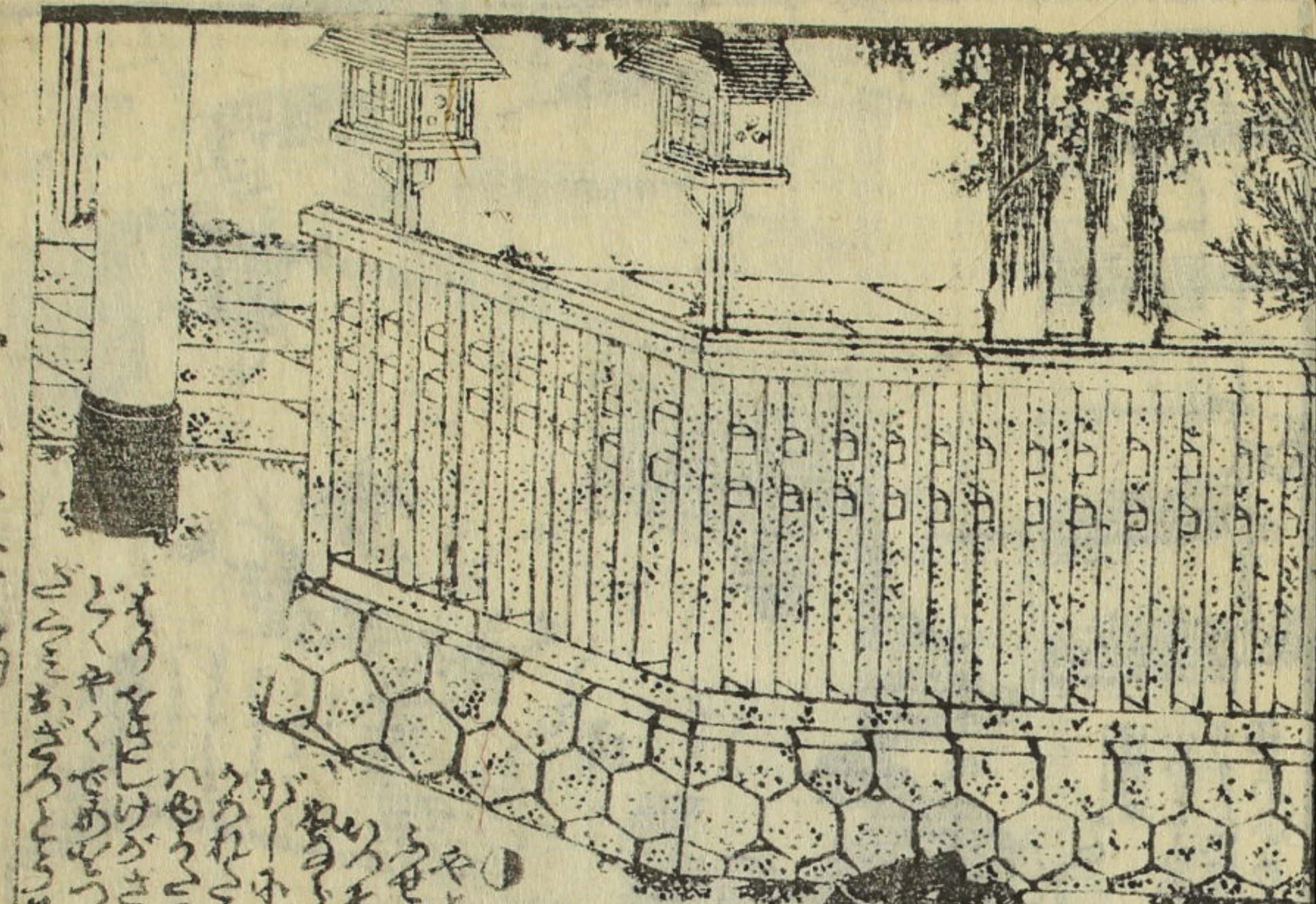


あさくさのうらり
三十一編下の巻

板元 廣幸

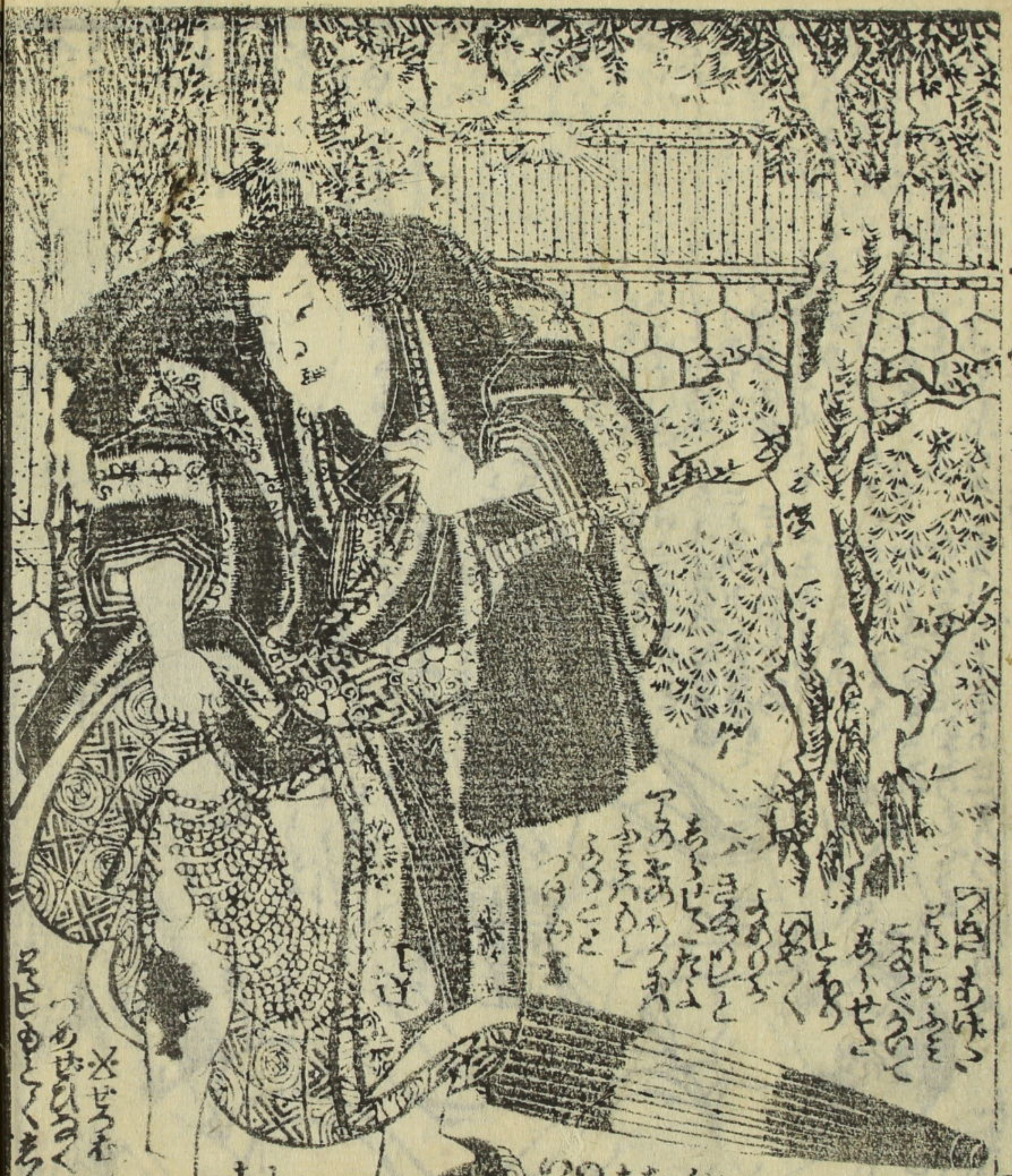


あさくさのうらり
あさくさのうらり
あさくさのうらり
あさくさのうらり



あつた人三十一編
あつた人三十一編
あつた人三十一編

あつた人三十一編
あつた人三十一編
あつた人三十一編



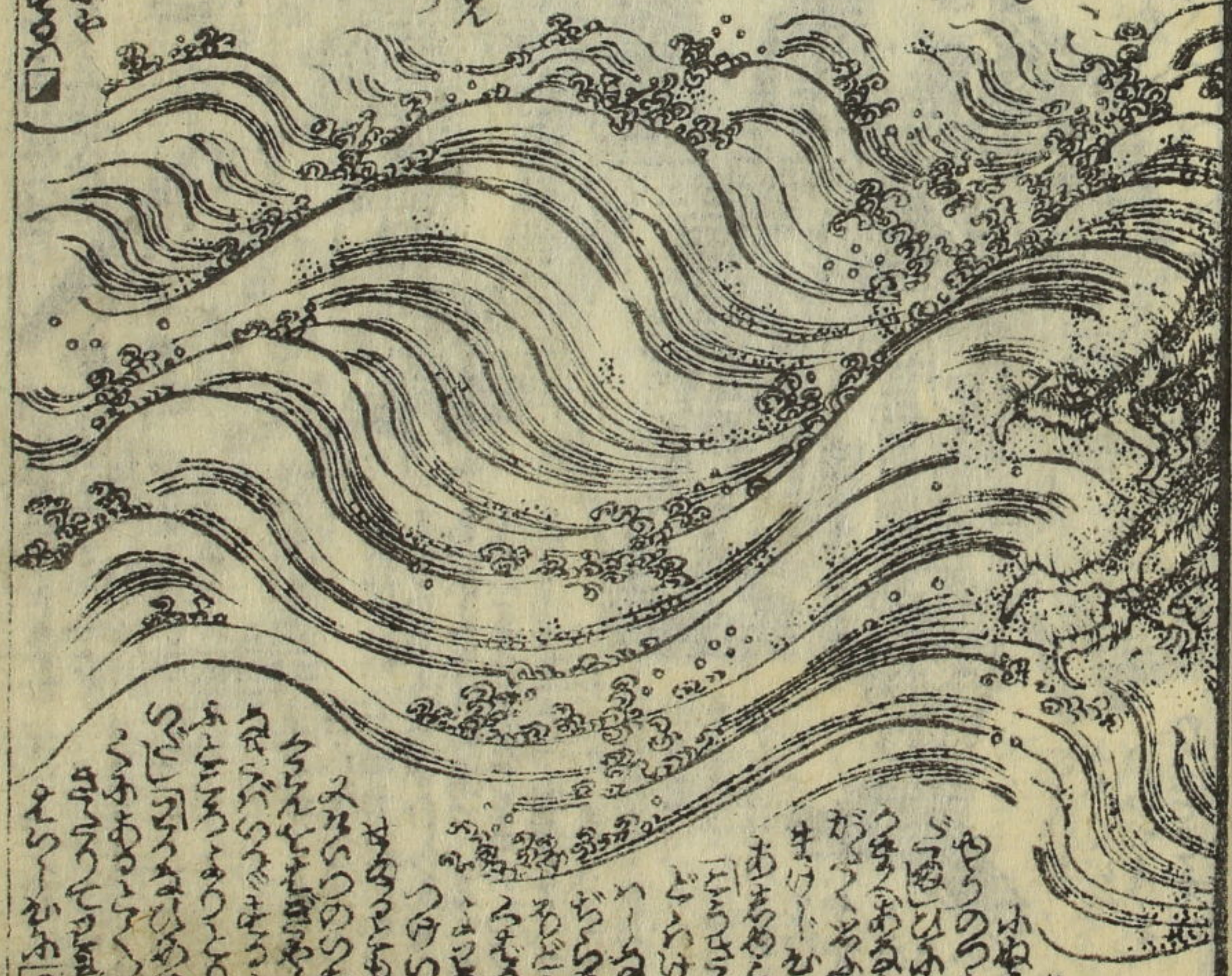
あつた人三十一編
あつた人三十一編
あつた人三十一編

ついでかじははとれのとのかかごせ
 やしひてのうらとせのちかむら
 こころ山又ありのちむらむらむら
 つま名かやうてか入るもく
 〇あがあまのひとらるるあま
 さびくけうとげあてのちのち
 わりされつたくのちのちのち
 まああめてのちのちのちのち
 のちのちのちのちのちのち
 せんとそのちのちのちのち
 あはとちのちのちのちのち
 ざんゆとちのちのちのち

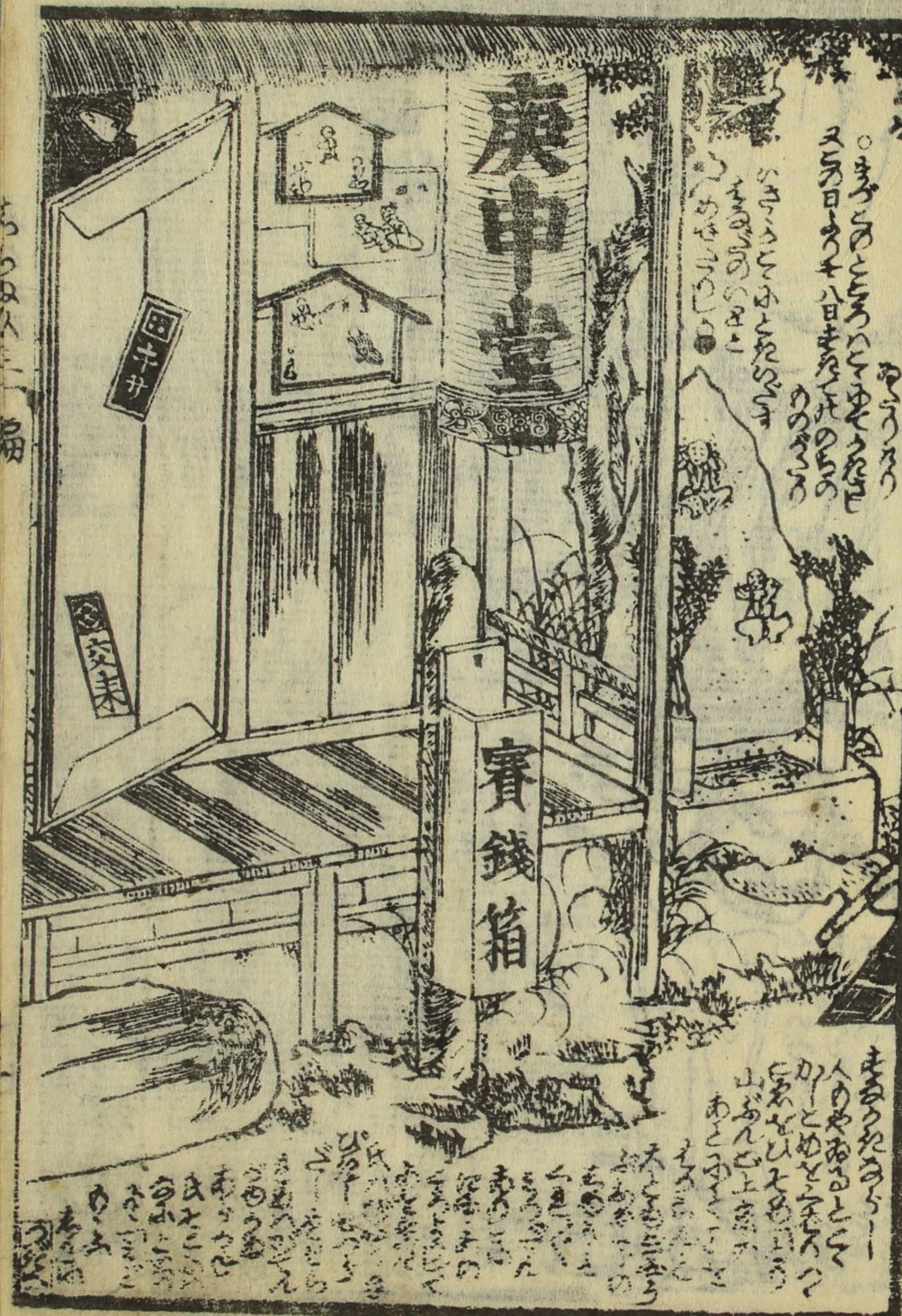


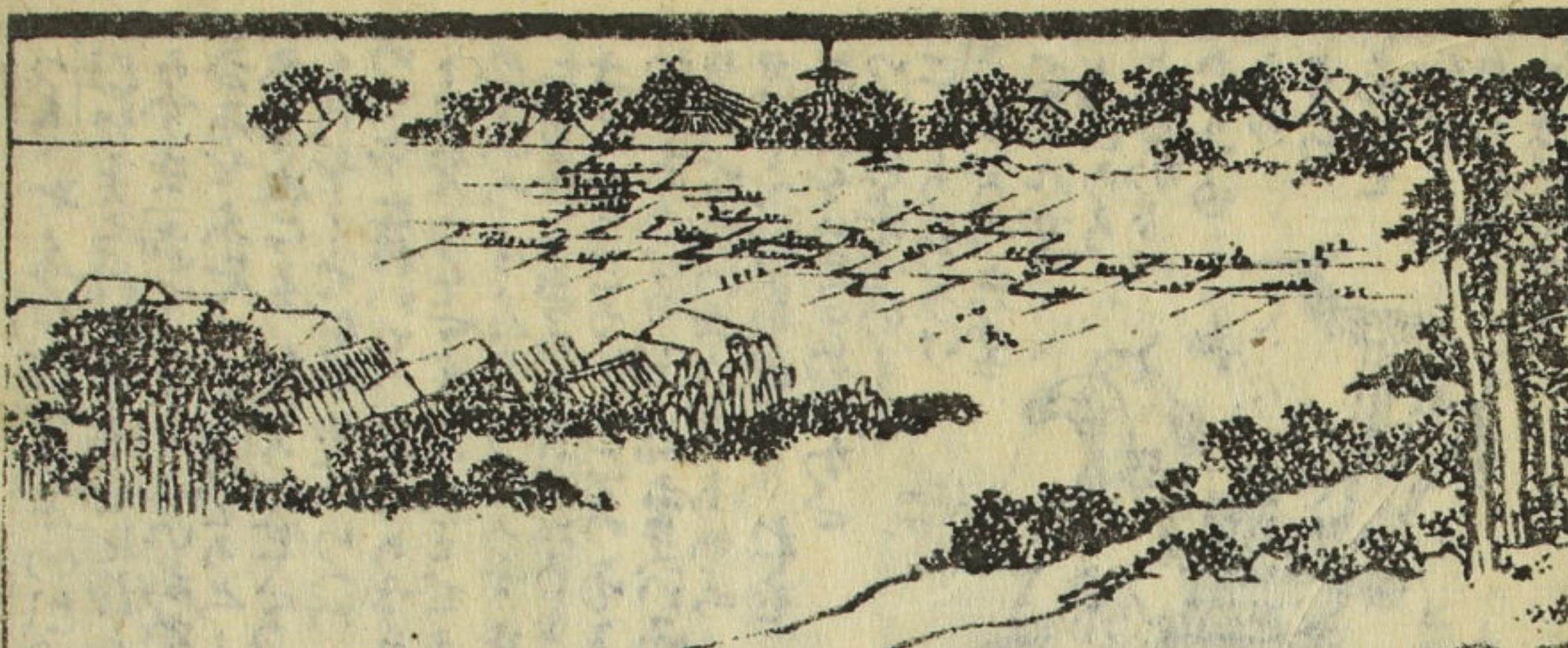
あまのむすひ
 かたれまらうの
 せうのち
 のちのち
 えんえん
 せうのち
 せうのち
 せうのち

あまのむすひ
 かたれまらうの
 せうのち
 のちのち
 えんえん
 せうのち
 せうのち
 せうのち



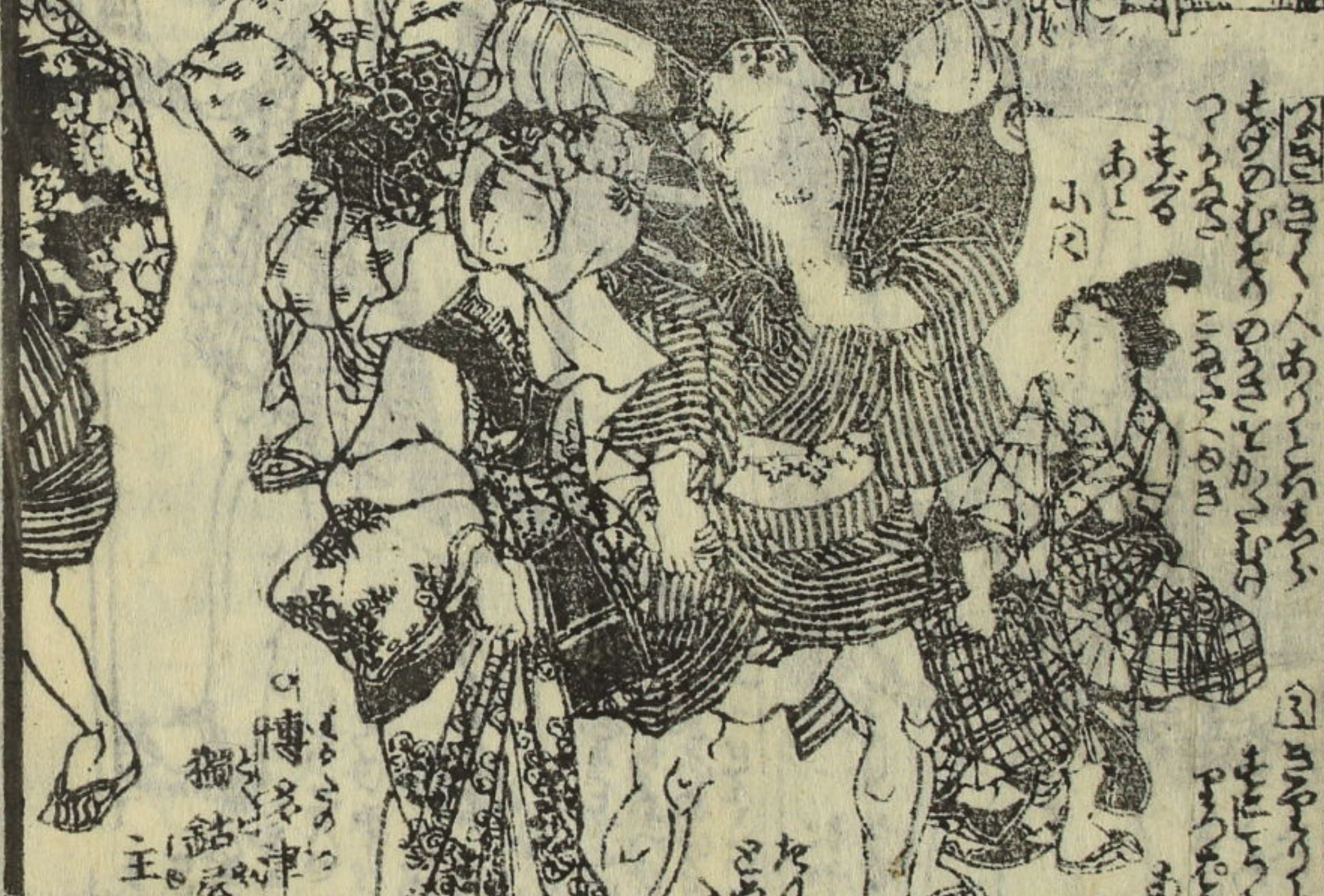
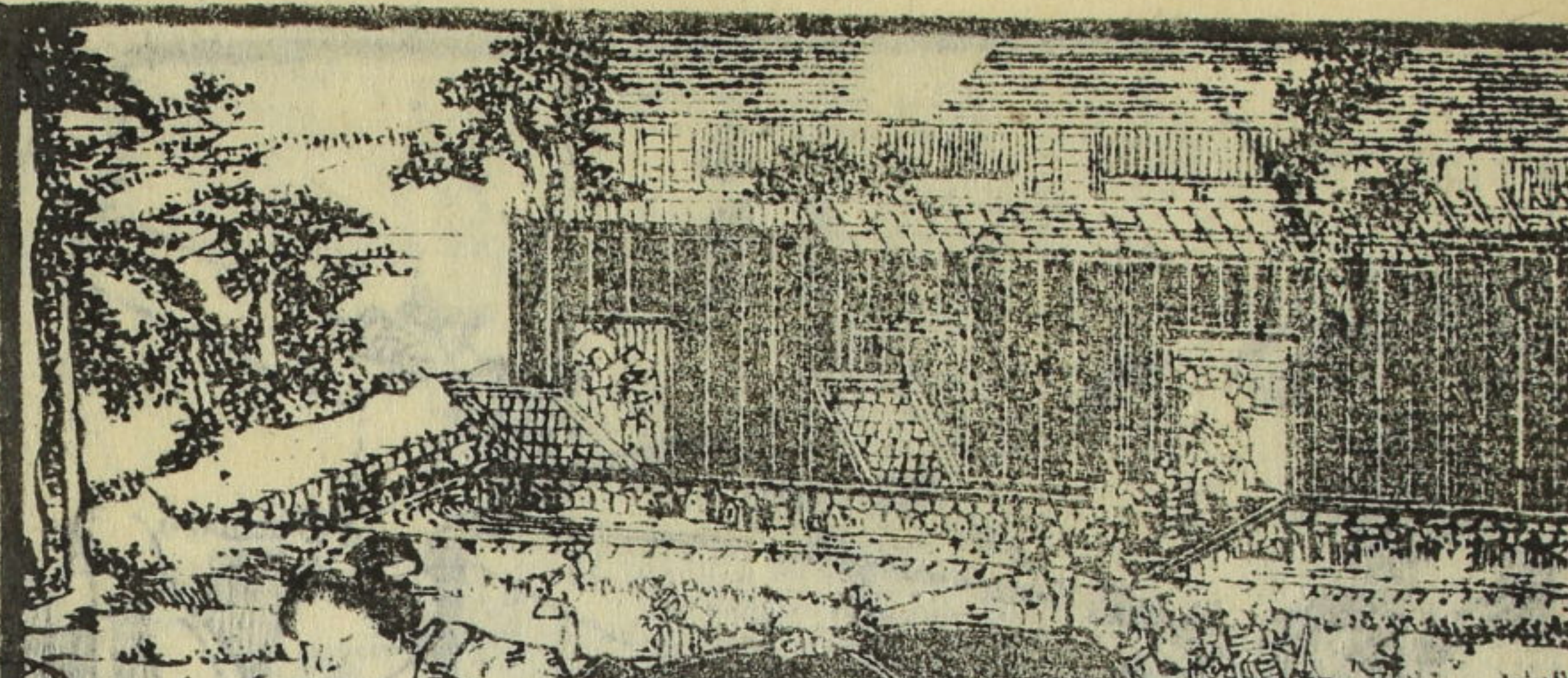
あまのむすひ
 かたれまらうの
 せうのち
 のちのち
 えんえん
 せうのち
 せうのち
 せうのち





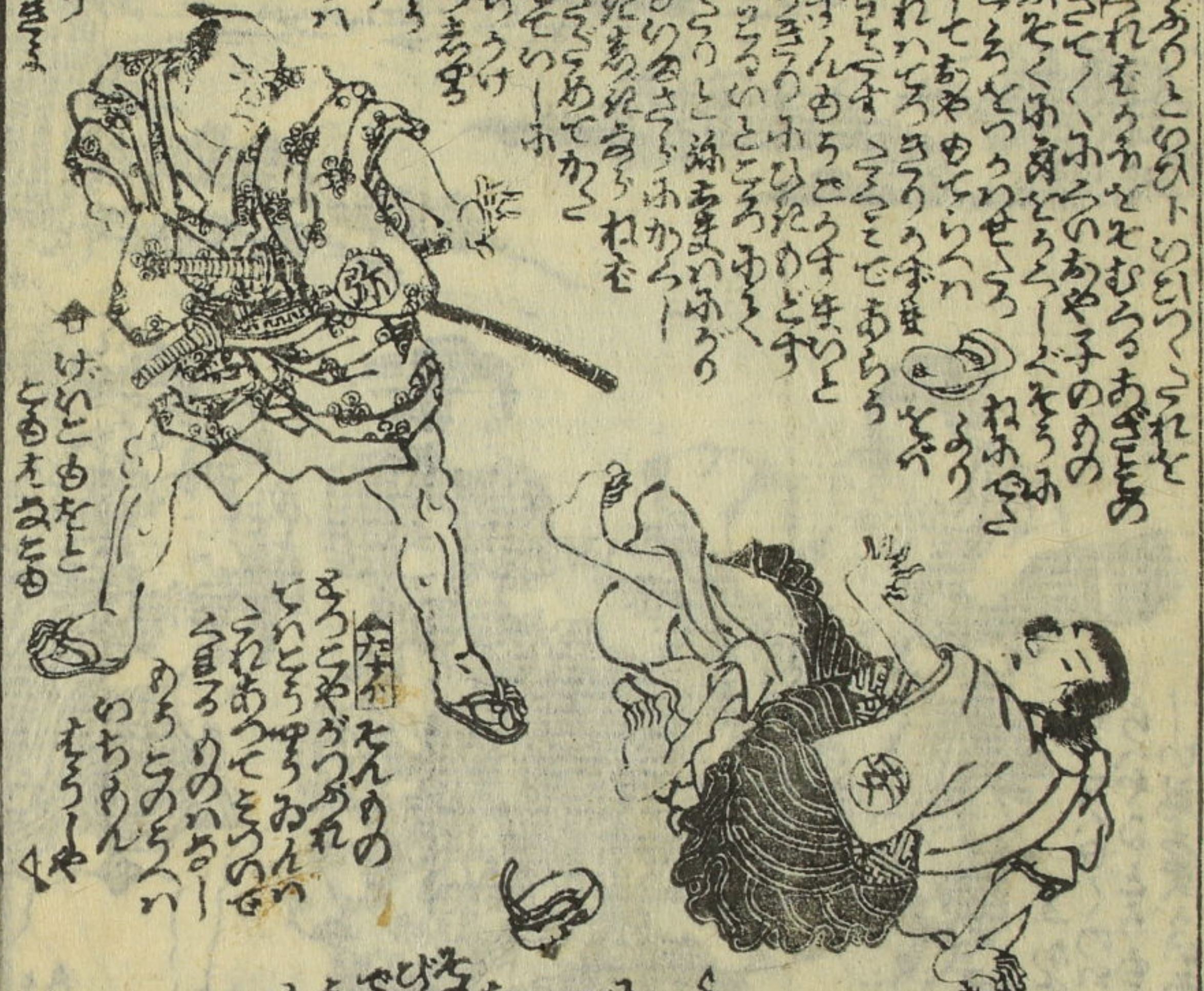
そのちんぬくのいとし
らやぶるどうもあや
い妹さまはあとの

各自小難敷
もるまゐ
孫平次の
語中よ
出らう
かき玉あたるいりんで
しうまをさうりうり
あはけとるのれあう
あれまをさうりうり
あけがくのあひひと
まのむすことあま
あつりとのちのちのち
んとしてそのまま
りひつそつとろし
ええ入りのまをふのま
こまあしをふかちや
うごかたさうりんとま
さやまんとあやう
あけしとふとつた
「まてくまろ」あ
ちちあけのまのうの

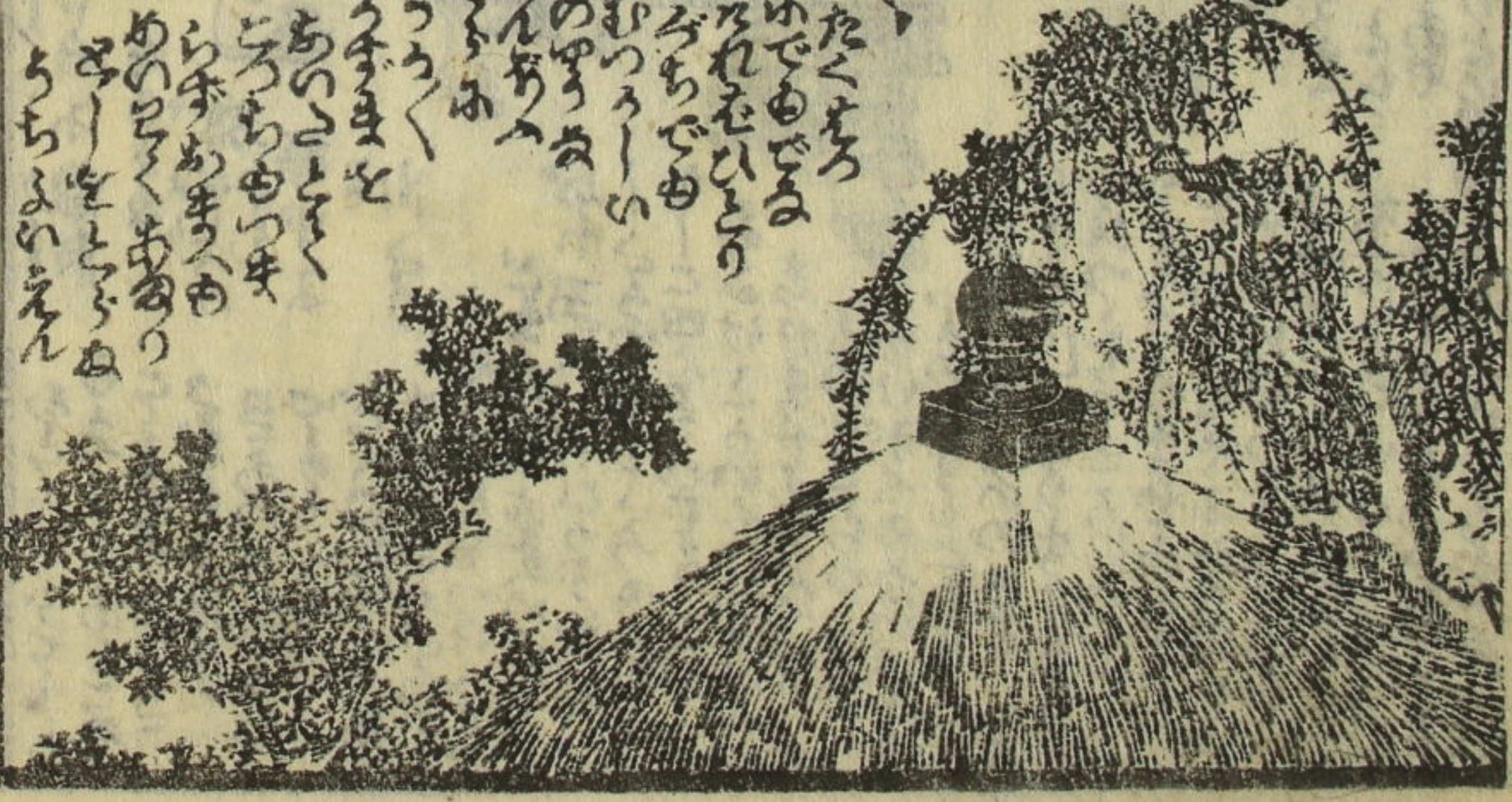


博多津
御結屋の男女
主婦お牛
没後
あつりとのちのちのち
んとしてそのまま
りひつそつとろし
ええ入りのまをふのま
こまあしをふかちや
うごかたさうりんとま
さやまんとあやう
あけしとふとつた
「まてくまろ」あ
ちちあけのまのうの

ついでとありとのひとのひついでと
ひねまられをうかをせむるあやしの
うすまをてくふらのあや子のの
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを



あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを



あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを

あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを



あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを
ついでとありとのひとのひついでと
あやをふそくあやをうすまを
ありをてあやをてうすまを

柳下亭種員遺稿
梅蝶樓國貞圖



たのしみせんぞく
ひゆなれはあつと
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの

このまゝつと
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの
あつたはあつたの

は何者ぞ
其黑白ハ

次編
分解
ふて
る

備書
交來

浪遊黄金鏡

浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡
浪遊黄金鏡

地衣草紙四巻

江戶原川佐實所
廣園菴幸助持

